

## 股関節機能障害 変更理由（シート A）

### ●CQ 番号： 変形性股関節症 CQ1

作 成： 辞退

判断に至った過程、協議内容など

CQ の作成段階で CQ 1, CQ2, CQ4 の I/C の内容が、かなり重複し、かつ、OA に関する文献数が他の股関節疾患に比べ多く、1 つの CQ を検討するのに 1 万件以上の文献をスクリーニングしなければならない状況であった。そこで、CQ1 は CQ2 を包含した内容であること、かつ、CQ2 は具体的治療まで踏みこんだ内容になっているため、会員にとって有益性が高いと判断し、CQ 1 は辞退し、CQ2 で検討を進める事とした。

### ●CQ 番号： 変形性股関節症 CQ2

作 成： 推奨

判断に至った過程、協議内容など

2 次スクリーニングまで行い、一定の文献数が集まったため、推奨レベルを目指して、解析を継続する。しかし、今後の限られた時間の中で、解析結果も含め、進行状況次第では、ステートメントに変更する可能性もある。

### ●CQ 番号： 変形性股関節症 CQ3

作 成： ステートメント

判断に至った過程、協議内容など

2 次スクリーニングまで行い、一定の文献数が集まったため、推奨レベルを目指して、解析を継続したが、今後の限られた時間の中で、解析結果も含め、進行状況が追い付かずステートメントに変更した。

### ●CQ 番号： 変形性股関節症 CQ4

作 成： 辞退

判断に至った過程、協議内容など

CQ の作成段階で CQ 1, CQ2, CQ4 の I/C の内容が、かなり重複し、かつ、OA に関する文献数が他の股関節疾患に比べ多く、1 つの CQ を検討するのに 1 万件以上の文献をスクリーニングしなければならない状況であった。CQ2 は進行予防に対する内容、CQ4 は理学療法の痛みに対する効果の内容であり、拡大解釈すれば、CQ2 で進行予防が有効となれば、当然、症状の一つである痛みもコントロール出来ていると考えられること、また、関連して変形性股関節症診療ガイドライン 2016 において、痛みに対する運動療法の短期的効果は、認められるとの記載があることから、今回は、当該 CQ4 に関しては、時間的制約もあり辞退し、次期、改定版で検討することとした。